

課題探究GS

3年生 最終発表会



能勢分校 ホームページ



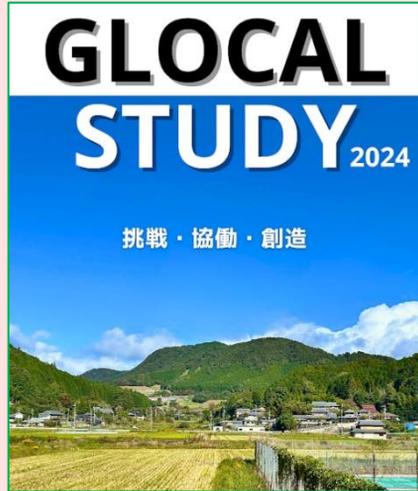
地域魅力化クラブ
Instagramは
分校HPからご覧
いただけます。

令和6年12月20日（金）浄るりシアター大ホールにて、能勢分校3年生の課題探究GS最終発表会が行われました。

2年生後期の授業「課題探究GS I」から探究活動を始め、1年半をかけて試行錯誤しながら、地域住民の皆さまや地域団体、町役場、その他関係機関のご協力のもと、能勢・豊能地域にフォーカスした課題探究を進めてきました。3年生全員が8つのチームに分かれ、それぞれが自分たちで気づき、考え、行動した地域課題について堂々と発表しました。

発表後の質疑応答では、来場者からの質問に対して生徒自らの考えで応答していました。発表会後の一般参加者のアンケートでは、「もっと地域の人達にこの発表を聞きに来てもらいたいと思いました」「とても素晴らしい発表。是非とも継続研究してもらいたい」などの声が寄せられました。生徒たちも「自分たちだけでなく、みんなしっかりと探究活動をしてきたんだと感じた。私たちも頑張った」といった感想を述べていました。

3年生にとって、集大成ともいえる素晴らしい発表会でした。



GLOCAL STUDY 2024

挑戦・協働・創造

芸術文化祭



芸術文化祭の来場者減少を受け、軽音演奏、モザイクアート、ウィッシュツリーなどの体験型企画を提案し、町民の参加を促進しました。

能勢町の森林とゼロカーボン



地球温暖化対策として、適切な森林管理の重要性を地域の子もたちに伝え、次世代の林業の担い手を増やす活動を行いました。

レンゲがミツバチと能勢を救う



ミツバチと能勢町の共生をめざし、循環・継続可能な農業を推進。地域の学校とも協力し、能勢町の魅力を発信しました。

古民家再生プロジェクト



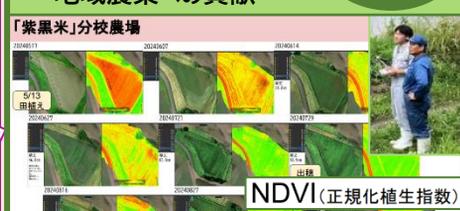
空き家となった古民家を再生し、地域の魅力を高めることで移住者を呼び込む活動を行いました。動画を通じて広く発信しました。

カメムシの情報はどこまで本当？



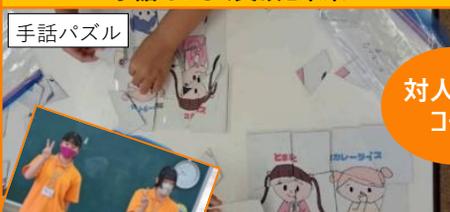
カメムシの大量発生による被害を受け、正しい情報を広めることで地域の困りごとを解決する活動を行いました。

ドローンによる地域農業への貢献



ドローンを活用して農場や水田の生育診断を行い、品質向上や省力化に役立つデータを収集しました。

手話を広めよう



手話の普及をめざし、保育所での手話教室や公共機関へのポスター掲示などを行い、手話に触れる機会を提供しました。

能勢分校生の体力向上



体力テストの結果を受け、球技大会や筋トレ・ストレッチの普及を通じて、能勢分校生の体力向上をめざしました。



大阪公立大学 伊井直比呂先生の講評
「毎年新しい課題に向き合い、時代に即した高校生らしい視点と行動力、そして地域の皆様のご協力などに基づいた結果と考察力。とても素晴らしい。」

課題探究GS I

● 2年生 テーマ発表会 ●



コース	テーマ
探究コース1班	能勢分校廃校の危機
探究コース2班	歩いて学ぶ能勢の魅力
食農流通コース1班	養鶏で能勢を元気に
食農流通コース2班	能勢栗からつながる地域経済のリポート
食農流通コース3班	高校生が特産品を！？
里山起業コース1班	Non STOPノゼ
対人支援コース1班	大阪のてっぺん元気にしよう計画

2月3日（月）、2年生が課題探究GS I テーマ発表会を行いました。発表テーマは「解決策を一緒に考えよう」。ポスター発表形式で各班の発表を一つずつ聞きながら、自分たちの班も発表するという形で進みました。

課題探究GS I の授業は、探究学習の基礎となる「効果的なデータ活用、問いの立て方、アイデア創出の学習」や「先輩の事例」などを学びながら、自分たちの探究テーマを考えてきました。12月に3年生の発表会を視聴し、来年は自分たちの番だと、大いに刺激を受けたようでした。

6期生たちの課題探究は始まっています！

能勢町 × 能勢分校 連携公開講座

令和6年度

令和6年11月12日に行いました。

能勢町 × 豊中高校能勢分校 連携公開講座

「エネルギーを変える。まちがかわる。」

～能勢・豊能まちづくりの挑戦～



株式会社 能勢・豊能まちづくり
代表取締役

講師：榎原 友樹氏

京都大学工学部地球工学科を卒業後、英国レディング大学にて修士課程修了。民間シンクタンクに勤務後、2012年環境・エネルギー分野のコンサルティング会社を設立。環境省環境研究総合推進戦略課題 S-11「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究」に参画し、「SDGs達成に向けた日本への処方箋」をとりまとめ、2020年に能勢町と豊能町と「株式会社能勢・豊能まちづくり」を設立。

共著書「エネルギーの世界を変える。22人の仕事」など。

令和6年度

令和7年2月18日に行いました。

能勢町 × 豊中高校能勢分校 連携公開講座

～「これからのキャリアと地域デザイン」～



一般社団法人 インパクトラボ
代表理事

講師：上田 準也氏

2019年立命館大学卒業と同時にインパクトラボを設立し、代表理事に就任。持続可能な社会の実現に向け、教育・研究・実践面からアプローチし、企業や大学等と連携した様々なプロジェクトを展開。立命館起業・事業化推進プログラム・オーガナイザー、立命館守山高校でのベンチャーや学生起業家の育成に従事。現在は、滋賀県立守山北高校地域連携コーディネーターとして、普通科改革に取り組む。著書「SDGs 表現論-プロジェクト・ブラマティズム・ジブンコト」（共著）など。

能勢町と連携して開催されるこの公開講座は能勢町のHPから参加申し込みいただくことができます。新しいエネルギーの考え方や地域活性についてのお話でとても興味深い内容でした。講座開催前に能勢町HP、能勢分校のHPからご案内いたします。次回はみなさまご参加されませんか。

E-bike Project = 4年間の軌跡 =

令和3年度から始まった「中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定」プロジェクト（通称：E-bikeプロジェクト）。（公財）国際交通安全学会の研究プロジェクトの一環として、東京大学や大阪大学、大阪公立大学等の研究者や自治体・企業の関係者とともに、生徒主体で地域の交通課題やまちづくり、交通安全教育について取り組んできました。

本プロジェクトに関わった生徒の人数は、2期生から7期生の合計約40人になりました。

そして4年間の集大成として、**本校のE-bikeの取り組みが書籍として出版される**ことになりました。タイトルは『「電チャリ通」から考えた地域づくり～大阪府立豊中高等学校能勢分校の挑戦～』（仮）。東京大学出版会から今春発売予定です。能勢町の交通課題の解決に高校生が主体的に取り組む活動として、社会からも高い関心が寄せられています。プロジェクトに関わった生徒たちのコメントも掲載されています。ご期待ください。



↑今年度の活動成果の一つ「能勢町観光PR動画」のリンク。能勢町観光協会が発行する「のせむすび」にも掲載予定です

2年生が修学旅行へ行きました



6期生の修学旅行は、10月30日(水)から2泊3日で沖縄へ行きました。台風21号の影響が心配される中、無事に那覇空港に到着し、全室オーシャンビューのリゾートホテルにチェックインしました。美ら海水族館では、大きなジンバイザメやマンタに興味津々、夕食は豪華なbuffetで大満足でした。

2日目は幸喜ビーチでマリンスポーツやクラフト体験を楽しみました。晴れ間が差し込み、絶好の海日和となりました。午後は古宇利島に移動し、幸せを呼ぶと言われているハートロックの前でクラス写真を撮影しました。その後、ホテル近くでビーチバレーなどをするなど、それぞれが自由時間を楽しみました。

最終日は6つのグループに分かれてタクシー研修を行いました。国際通りやアメリカンビレッジ、平和記念資料館などを訪れ、各グループが計画した旅程に基づき研修を進めました。全員が16時に那覇空港に集合し、簡単な振り返りを行った後、無事に帰路につきました。

天候が心配な3日間でしたが、概ね天候には恵まれ、多くの経験や体験、学びのある修学旅行となりました。生徒たちは沖縄の自然や文化を存分に楽しみ、思い出に残る素晴らしい時間を過ごしました。



農場だより

冬も野菜の収穫、果樹の剪定、土壌改良など様々な実習があり、農場の学びにオフシーズンはありません!



●採卵鶏の解体実習(食農流通コース2・3年生)

附属農場で飼養する採卵鶏について、12月6日(金)に解体実習に取り組みました。前年度に導入し、産卵のピークを過ぎた群を解体して更新します。養鶏の一連のサイクルを学ぶ上で非常に重要な実習であり、「命の大切さ」をさらに深く実感してほしいと考えています。

●プロによる実践的指導(食農流通コース2年生)

1月28日(火)に「ベジたぶるばーく」の植田絵美さんをお招きし、農業の六次産業化について講義などしていただきました。商品開発のワークショップでは、購入層やどんな時に食べてほしいのかなど、細部にわたって設定することが大切だと話しておられました。その後の商品開発のワークショップでは、どの班も積極的で、様々な加工品のプランを提案していました。



プロによる実践的指導のようす

●「キャリアアップ」(食農流通コース2年生)

農業に関する知識とともに、実習でも扱うガソリン、灯油といった危険物に関する知識を身に付けることをめざしています。その一環として日本農業技術検定3級と乙4類危険物取扱者の試験を受験しました。日本農業技術検定については、12月7日(土)に受験し、5名が合格しました。危険物取扱者試験については、2月16日(日)に大阪大学豊中キャンパスで一般の方とともに2年生全員が受験しました。



耐寒遠足



2月7日(金)隔年で行われる、耐寒遠足がありました。この冬一番の寒波の中、学校周辺の山野を歩き、能勢の自然に親しむとともに、体力の増進、友人との連帯感、自主性、忍耐力を培います。

今回のルートは学校①→清正公前交差点→ニシコン前→ともがき上の農道→歌垣農協②→歌垣山山頂③→堀越峠→地黄分岐→奥の院登り口→妙見奥の院④→真如寺前→奥の院バス停→仏坂→学校の旧食堂でした。学校を出発し、チェックポイント4か所を順に周り、学校に戻ってきます。旧食堂ではPTAの皆さんが準備してくださったカップラーメンをいただきました。暖かいラーメンが冷えた体にしみわたりました。

2年ぶりです。気を付けて行ってください



GOAL!!

5期生、卒業おめでとうございます！



令和7年2月28日(金)、豊中高校能勢分校5期生24名の卒業式を執り行いました。式には保護者と来賓、在校生が出席し、温かい祝福の言葉が交わされました。

准校長は式辞の中で、「コロナ禍から始まった高校生活でしたが、どんな状況でも楽しもうとする皆さんの姿に元気をもらっていました。これからの多様化が進む世界では『想像する力』が必要です。相手の立場になって物事を考えることが大切になります。皆さんの物語の主人公は皆さん自身です。」とエールを贈りました。在校生代表の挨拶では、「いつも私たちのお手本になっていただきありがとうございました」と感謝の言葉がありました。卒業生からは思い出の写真や映像をスライドで流しながら、お世話になった先生方や在校生、保護者の皆様に感謝の気持ちを伝え、感極まって涙する生徒たちの姿が感動を誘いました。

朝降っていた雨も式が終わる頃にはいつの間にか止んでおり、まるで未来に向けて新たな一歩を踏み出す卒業生たちを祝福するかのようでした。能勢分校で過ごした日々を思い出し、一人ひとりが描く未来への一歩を力強く踏み出すことを期待しています。おめでとうございます！

中高連携事業

10月31日(木)に東能勢小中学校8年生(21名)、11月1日(金)にささゆり学園7年生(48名)が、学校説明と農場見学に能勢分校へ来ました。また、11月28日(木)にはささゆり学園8年生(54名)が系列授業体験に来校し、それぞれが希望する系列の授業を体験しました。高校の授業内容を中学生が理解できるように工夫された授業です。普段とは異なる環境と高校の先生による授業ということで、生徒たちは最初は緊張した面持ちでしたが、先生方の内容を中学生が理解できるように工夫した授業展開に興味を持って聞き入っていました。

- 探究コース : 「数学の不思議を根拠立ててみよう」
- 対人支援コース : 「カロリーと運動」
- 里山起業コース : 「チリメンモンスターを探そう」
- 食農流通コース : 「日本農業技術検定にチャレンジ&能勢の特産物“くり”について学ぼう」

里山起業コース



「たくさんの種類のチリモンが見つかって楽しかった。」「魚類、節足動物、軟体動物などの分類を学んだ」(生徒の感想)



ラトビアとニュージーランドの留学生が帰国しました

昨年10月から約1ヵ月短期留学生として能勢分校に来ていたラトビアのハラルズ、ニュージーランドのミレンが帰国しました。ささゆり学園4年生の英語活動にも参加し楽しい時間を過ごしました。ハラルズさんからメッセージです。

私は日本文化に魅了され、独学で日本語と歴史を学び始め、AFSを通じて日本へ行くことができました。14時間のフライト後、湧泉寺の山口さんの家に滞在し、能勢分校で勉強しました。ホストファミリーやクラスメイトとの交流で日本語が上達し、書道、茶道、太鼓などの学校外での活動を通じて日本文化を深く学びました。私は能勢町の自然、山、小川、田んぼ、穏やかな空気が本当に気に入りました。滞在の最後には能面の工房を訪れ、伝統工芸の技術に感動しました。素晴らしい時間を過ごし、山口さん一家や学校の友人に感謝しています。



留学生ホストファミリー&サポートメンバー募集

本校では、毎年長期・短期留学生の受入れを行っています。ホストファミリーまたはホストファミリーのサポートをしてくれる方を募集しています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

連絡先 : 豊中高校能勢分校 国際交流担当 : 田中 or 川嶋
☎ 072-737-0666 toyonaka-noseb-hs@gedu.pref-osaka.ed.jp